

令和 5 年度「学校あんしん生活アンケート」の結果について【お知らせ】

平成 2 7 年 4 月に策定された「大東市いじめ防止基本方針」（令和 5 年 4 月改定）には、学校や家庭だけでなく地域や専門機関が連携して、総合的かつ効果的にいじめ問題に対応・解決するため取り組むことが定められています。

いじめは重大な人権侵害事象として根絶すべき教育課題であるという考えのもと、市内公立全小・中学校において、早期発見、早期対応に向けた「学校あんしん生活アンケート」を実施しました。また、いじめや対人トラブル、犯罪被害の要因の一部となっている携帯電話・スマートフォン等に関する調査も行いました。

このアンケート調査の結果をもとに、子どもたち一人ひとりの実態把握はもとより、いじめを許さない学級や学年など、集団のあり方について、学校と教育委員会、専門機関や地域が連携して取り組み、大東市のいじめ問題解決に向けた体制整備の充実と、迅速かつ効果的な対応の推進を一層図ってまいりたいと考えております。

ご家庭におかれましても、「いじめチェックシート（※大東市ホームページにも掲載）」を活用するなどして、子どもたちの変化を敏感に受け止め、「いじめは絶対に許さない」というメッセージを強く伝えていただきますようお願いいたします。

また、ご心配なことがございましたら、学校や教育委員会、その他の相談機関にご相談くださいますようお願いいたします。

※文部科学省の「いじめ」のとりえ方

定義：「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。」

判断：「個々の行為が『いじめ』に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。」

○回答数について

小学校 5, 0 1 6 名（9 7. 6 %）
中学校 2, 5 0 1 名（9 3. 7 %）

○アンケート実施時期

令和 5 年 1 0 月 2 0 日（金）～ 1 1 月 3 0 日（水）

○アンケート結果より

- ・学年が上がるにつれて「いじめられたと感じたことがある」と回答する割合は少なくなっています。また、昨年度と同様、「がまんした」と回答する児童生徒の割合は多い状態にあります。
- ・クラスでいじめを見たときに「だまって見ていた」割合よりも「止めた・やめるように言った」割合が多い結果となっています。児童生徒の積極的な行動が、いじめ行為を抑止することにもつながります。
- ・携帯電話、スマートフォン、パソコン・タブレット・ゲーム機等いずれかを所持している割合は、小学校（3 年生以上）で 9 3. 8 %、中学校で 9 7. 4 % となっています。スマートフォンの所持率は、全学年で年々増加傾向にありますが、特に小学校中学年から高学年にかけて増加率が比較的大きくなっています。

○学校・家庭での取り組み

学校では…

- （1）各校「学校いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止・早期対応に取り組んでいきます。
- （2）小・中学校の連携を強化し、情報の共有・共通理解を図るよう取り組んでいきます。
- （3）小・中学校において、多様な考え方を出し合える、一人ひとりを認め合う授業を行い、学校生活や授業の中で子どもどうしがつながり、誰もが安心して過ごすことができる学級・学校をつくっていきます。
- （4）スマートフォン・タブレット P C 等を使用する際の情報モラルやマナーなどについて学ぶ機会をつくっていきます。
- （5）日常的な人権尊重の教育のもと、教職員が「いじめは絶対に許さない」との毅然とした態度で臨み、教育委員会や専門機関等と連携した組織的な対応をしていきます。
- （6）スクールカウンセラーや教育相談の活用など、子どもや保護者の願い、訴えをしっかりと受け止め、相談できる信頼関係、体制の充実に努め、一人で抱え込まないような環境づくりを推進していきます。

ご家庭では…

- （1）いじめられたと感じた児童生徒が家族に相談した割合は、学年間で大きな差があります。下記「いじめチェックシート」を参考にお子様の様子をよく観察してください。
- （2）携帯電話やスマートフォン等を持たせるときは、ご家庭の責任において、使用についてのモラルやマナーについてしっかりと話し合い、年齢に応じたご家庭でのルール設定をお願いします。

いじめチェックシート ～見逃さないで!!いじめのサイン～

大東市小・中学校生活指導研究協議会
大東市教育委員会

保護者の皆様へ

お子様の気持ちは日々変わっています。楽しい気持ちの日もあれば、悲しく感じる日もあります。そんなお子様の気持ちを読み取り、不安や悩みを取りのぞいていくための手段の一つとして、本シートを作成しました。いじめ以外のトラブルで悩んでいる場合もあります。問い詰めるのではなく、まずはじっくりと話を聞いてあげてください。もし、心配なことがあれば、学校又は下記の関係諸機関へご相談ください。

①言動・態度・情緒

- ◇登校時間になると、頭痛や腹痛などを訴え学校に行きたがらない
- ◇理由も言わずに出ていくなど、友だちの言いなりになっている
- ◇急に口数が少なくなる。学校に関する話題が極端に減る
- ◇「転校したい」「生まれ変わりたい」などと口にするようになる
- ◇イライラしたり、おどおどしたり落ち着きがなくなる
- ◇独り言を言ったり、夜中にうなされる
- ◇しんどい・病気などを訴え遅刻早退が増えてきた
- ◇先生や友だちに対する不満を口にする事が多い
- ◇表情が暗くなり、ぼんやりしていることが多くなる
- ◇急に、無気力・食欲不振・学業不振となる

②服装・身体

- ◇衣服が汚れたり、破れたり、手足や顔などに擦り傷がある
- ◇「けんか」「転んだ」と言ってケガやアザがある

③持ち物・金品

- ◇子どもの持ち物などが壊されていたり、なくなったりする
- ◇教科書やノートにいたずらされた形跡がある
- ◇家のお金を無断で持ち出したり、必要以上にお金を欲しがったりする
- ◇メモやノートなどに悩み事が書きこんである

④携帯電話関係

- ◇1 日中携帯電話を気にしている
- ◇急に着信音を消すようになる
- ◇携帯電話の使用料金が突然上がる
- ◇携帯電話のメール・着信履歴を消す、見せなくなる

悩みごとがあれば、学校や相談機関に相談してください。

●相談機関一覧

- ・大東市教育相談室（水、金、午前 1 0 時～午後 2 時） 0 9 0 - 9 8 4 0 - 9 3 4 3
- ・大東市教育委員会（月～金、午前 9 時～午後 5 時 3 0 分） 8 7 0 - 9 1 0 4
- ・子ども専用「子どもの悩み相談フリーダイヤル」（年中無休、2 4 時間無料通話）0 1 2 0 - 7 2 8 5 - 2 5
- ・大阪府教育センター「すこやか教育相談」（月～金、午前 9 時 3 0 分～午後 5 時 3 0 分）0 6 - 6 6 0 7 - 7 3 6 1（子ども用） 0 6 - 6 6 0 7 - 7 3 6 2（保護者用）
- ・大阪府警察 少年相談「グリーンライン」（月～金、午前 9 時～午後 5 時 4 5 分）0 6 - 6 9 4 4 - 7 8 6 7



大東市教育相談室

大阪府教育センター
すこやか教育相談



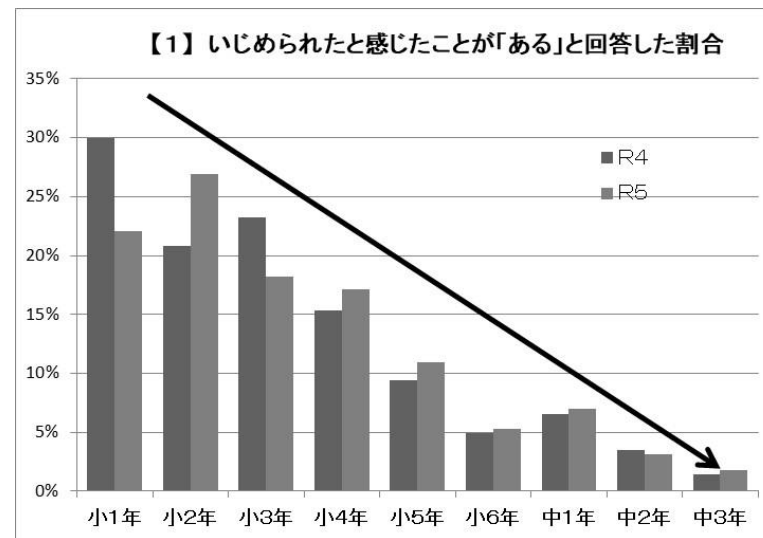
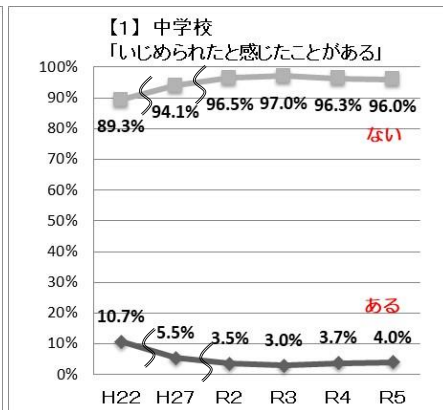
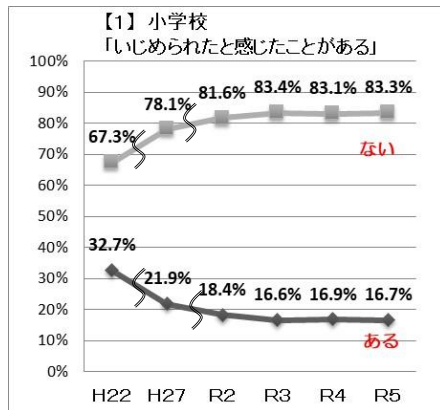
LINE 相談
すこやか相談@大阪府



《アンケート結果》

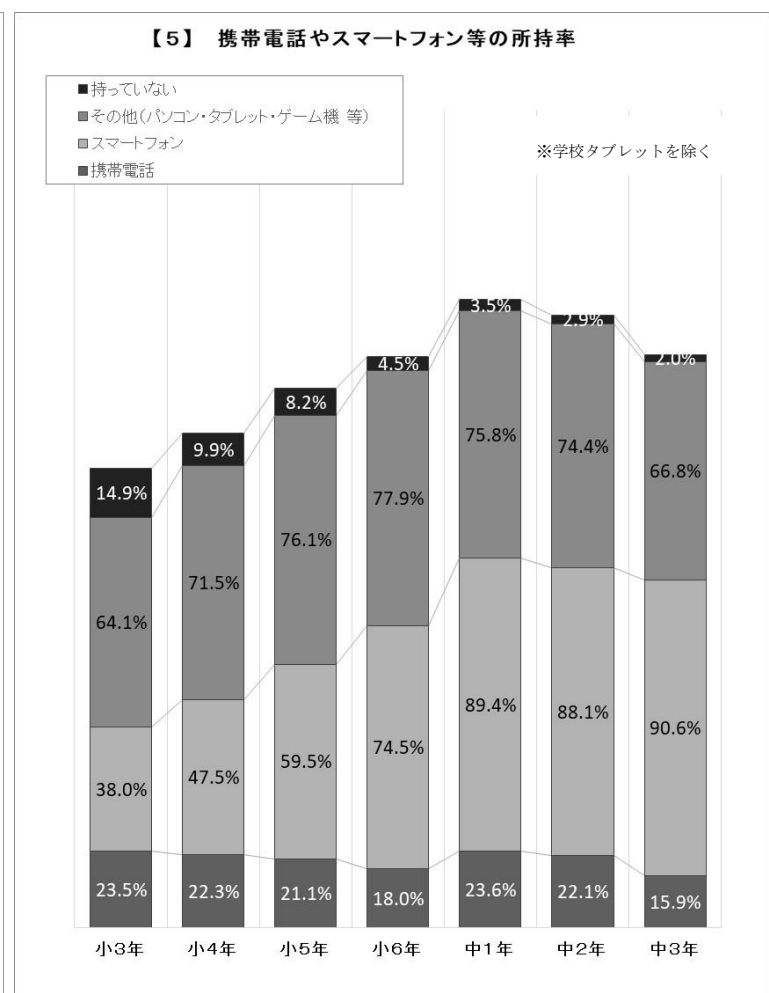
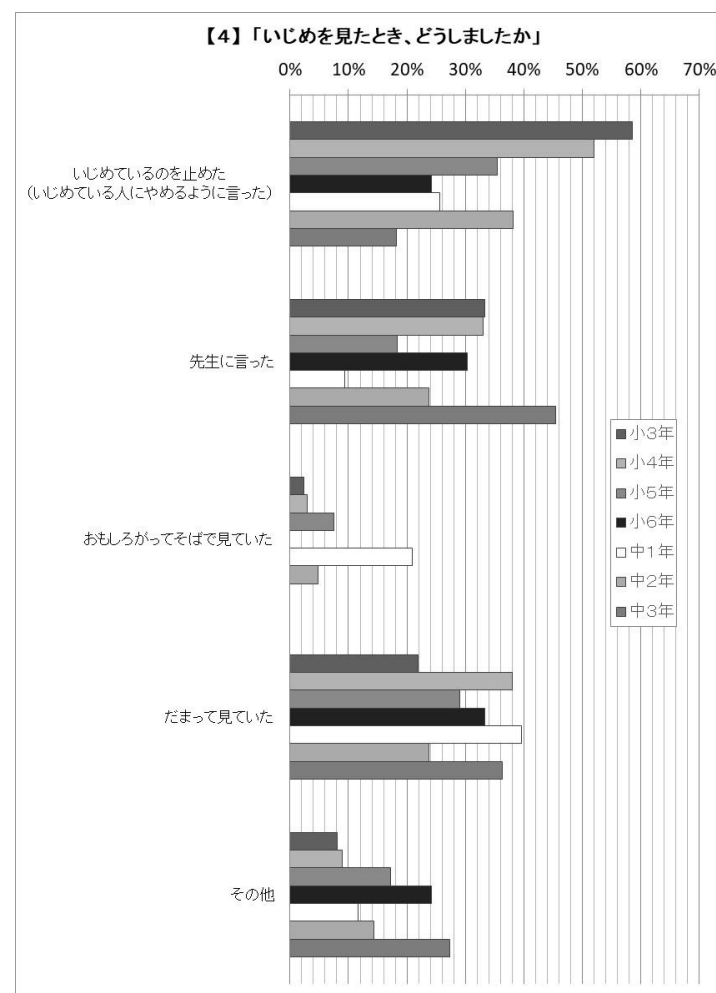
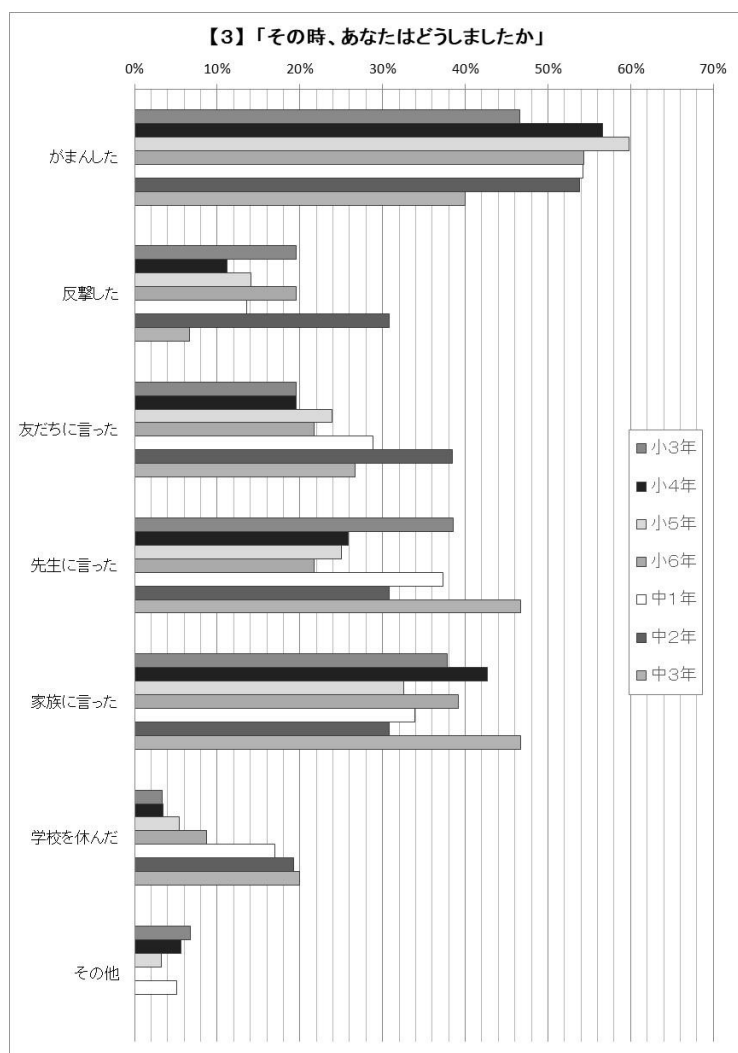
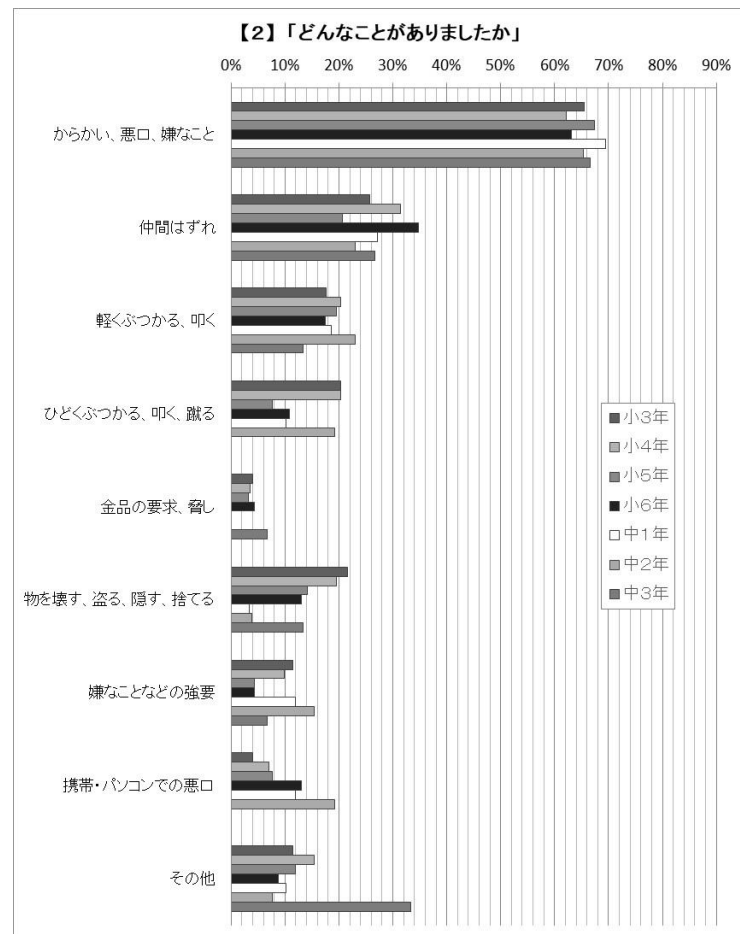
グラフの見方

- ・今回のアンケート結果をもとに、「経年比較」（昨年度までとの比較）や「学年比較」（他の学年との比較）を行い、今後の取組みの参考となるものを取り上げています。
- ・調査結果の数字は全て百分率（％）で表しています。よって「経年比較」においては、昨年度と、「学年比較」では、他の学年と母数が違うことにご留意ください。
- ・「ある」と回答した児童生徒のみが回答するもの（複数回答含む）は、その設問への回答数を分母として百分率で表しています。



設問【1】では、「今の学年になってからいじめられたと感じたことがありますか」とたずねています。

- ・「ある」と回答した児童生徒の割合は、昨年と比較すると、小中学校ともに増加しています。
- ・学年比較で見ると、小中学校ともに学年が上がるにつれて減少する傾向にありますが、学年によって違いが見られます。また、中学校では、1年生の割合が半分以上を占めています。



設問【2】では、【1】で「ある」と回答した児童生徒に、「どんなことがありましたか」とたずねています。（複数回答）

- ・学年比較で見ると、例年と同様に「からかい、悪口、嫌なこと」がどの学年においても最も多くなっています。
- ・「軽くぶつかる、叩く」「ひどくぶつかる、叩く、蹴る」の割合が、今年度も例年どおりの割合となっています。
- ・経年で見ると「携帯・パソコンでの悪口」は増加傾向です。

【2】の続きの設問で、「その時、あなたはどうしましたか」とたずねています。（複数回答）

- ・小中学校ともに「がまんした」という回答が多いです。
- ・「先生に言った」「家族に言った」の割合が一定数あることから大人のかかわりも重要である。
- ・「学校を休んだ」の割合が年々増加しています。
- ・一人で抱え込むことを防ぐため、家庭でもお声掛けをしていただくなど変化を見逃さないようお願いします。

設問【4】では、いじめを見たことが「ある」と回答した児童生徒に対して、「その時、あなたはどうしましたか」とたずねています。（複数回答）

- ・例年、学年比較で見ると、「止めた」「先生に言った」という回答は、学年が上がるにつれて少なくなりますが、今年度に学年によって差が見られました。
- ・学校では「自分に何ができるのか」と、「自分事」として考える人権教育を、また、お互いに声をかけあえる関係性を築く集団づくりを推進していきます。

設問【5】は、「携帯電話・スマートフォン等の所持率」を表しています。

- ・小学校6年生から中学校1年生にかけて、携帯電話やゲーム等からスマートフォンに移行したり、新たにスマートフォンを所持したりする割合が多くなっています。（合計が100%を超えるのは複数所持のため）
- ・学校でも情報モラル学習などの取組みをしておりますが、家庭での啓発も併せてよりしくお願いします。